

今日は1/10(土)です。一週間の倫理の倫理の倫理です。1/2~1/8の長期休暇です。これは、無理無理です。実はこの10日は、感謝の日、1/4が私の誕生日でもあります。(25才)

2022.9.3~9.9

今週の 倫理

9月のテーマ | 境遇を受け入れる

1297号

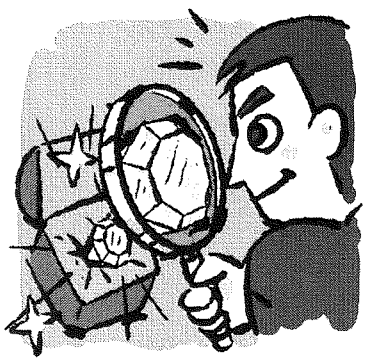
「全20冊も良し」で受け入れたい。

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所第二代理事長・丸山竹秋（一九二一—一九九九）のこトバを掲載いたします。

どうにもならないものは、進んで受け入れるほかはない。貧乏な家に生まれたことを悔やむよりも、むしろ「これがいいのだ」と、大いに張りきることだ。そして毎日毎日、気持ちを新しく持ち、今日も生まれ直して働くぞと、仕事に取り組んでいくことだ。そこに自分自身の開關（かいびやく）がある。開關とは天地の開け初めのことだ。

天地はいつ開けたのか、誰も分からない。神話ではいろいろと説かれているが、実際に見た者は誰もいない。地球は四十五億年ぐらい以前に誕生したと科学は教えるが、どのように誕生したのか、見た者はいない。とにかくいつか分からない頃から天地が開けて、そうして変化しつつ今日に及んでいる。大地も海も、それぞれ少しずつ変化しながら、日々新しい活動を続けている。

昨日開いた花は、今日はもう変わっている。たとえ同じようであっても、微細な変化がある。少しも変わらなれないと言われるダイヤモンドでも、厳重な調査によれば、やはりごくわずかな変化しているそうである。人間も同じように日々変化している。その変化を、自ら開花に転じて「さあ行く」と積極的に打ち出していくのが、人間の日々の開關なのである。これは人間の変わり得る面であり、やればやれる部分なのである。



課題を整理する

丸山竹秋

ある。切り落とされた手をつなぐことも、医学ではできるようになった。すみやかに、元のとおりに合わせて、神経や血管をつなぐことに成功すると、死んだと見えた手が生き生きとなる。これは人間の可能性の面だ。月の世界にも飛べる。驚どころの話ではないのである。性格だつて、反省し、検討し、努力を積み重ねていくと、次第に変わってくる。

親祖先から受け継いできた徳も罪も、それらをすべて否定し、排除し去ることはできないのに、いつまでも不満に思い、己の本分を忘れてしまうのは間違いだ。

とにかく生まれたときからすでにこうであつたものは、善かろうと悪かろうと、そのままに有難く頂戴し、これでよし、さてこの身を日々新たに開発し、自分自身なりに善いことを実行しつつ、社会のために働いていこうと努める、これが人間の生きがいなのである。

あなたも、私も、それぞれ他に類のない生きものなのだ。すべてにわたつて同じ人は他に誰もいない。とすれば自分自身はこの天地の中でたった一人の存在である。たった一人ならば貴重極まりないではないか。その貴重な自分、天下一品の素晴らしい人間である自分自身の中に潜んでいるもの、これを開発発展させ開花結実させていく。これが自分の生きる喜びであり、まさにその生きがなのである。

『繁栄の法則』より